

石狩市浜益区
地域協議会広報



浜地協

だ
い
よ
り

《発行》 浜益区
地域協議会事務局
〈支所地域振興課〉

Tel79-2029
Fax79-3702

[VOL160]

令和3年度 第6回 浜益区地域協議会

- 【とき】 令和3年12月1日(水)
18:00~19:40
- 【ところ】 浜益支所(旧議場)
- 【委員】 <出席> 10名 <欠席> 3名
- 【傍聴】 6名
- ・会議の概要を掲載しています。
- ・詳細は、市ホームページで公開中です。

当日は2件の報告事項と1件の協議事項が審議されました。
また、その他の事項で2件の情報提供がありました。
主な内容については、次のとおりです。

報告事項

①統合教育施設の検討状況について

教育委員会生涯学習部東総務企画課長より浜益中学校用地測量業務の調査結果が報告されました。

現中学校は傾斜地に囲まれ崖地条例の制限区域内でもあるため、限られたスペースに小中学校と保育園の整備を進める必要があること



委員からは
新築校舎の
機能や既存
校舎の改修
見通しなどの

などが示され、現中学校の前庭エリアに小学校と保育園の整備を行う方向で検討が進んでいることや、既存校舎の有効活用と前庭を可能な限り残すこと、新校舎と既存校舎の連結の方法について、今後も保護者をはじめ学校関係者から意見を伺いながら具体化していく予定との説明がありました。

質問や、前庭の必要性について意見が出されました。

②カフェ・クローバーの活動について

令和2年6月より柏木地区で開設している「カフェ・クローバー」について、「活動から見える高齢者に優しいまちづくり」と題して、浜益区の高齢者の現状とサロンの活動状況が報告されました。

小島保健師からは、人口と高齢化率の推移と浜益区内の高齢者に行った、2つの調査から読み取れた高齢者の思いと、それに応えていくための課題が報告され、灌漑デザインーターからは、カフェ・クローバー開設の経緯経過、その運営を支える

支えあいの地域づくりのために

これまで・・・
▶年をとったら → 「世話になるわ」
これから・・・
▶年をとっても → 「お世話できる！」

- ▶一人一人が大事な存在、社会資源の一つです
- ▶ときには「助けられ」ときには「役に立つ出番がある」
- ▶浜益暮らしの中で「自分の役割」をみつけましょう！

元気で長生きするためには

「きょういく」と「きょうよう」
が大切と言われます！
(「教育」「教養」のことではありません！)

「きょういく」
⇒「今日行く場所があること」

「きょうよう」
⇒「今日用があること」

カフェ・クローバーが「出かける場所＝目的地」になっているのではないかと



浜益の高齢者を支えるために

- ▶人口減少、少子高齢化の流れは今後も続いていく。
- ▶「住み慣れた浜益で余生を過ごしたい」と考えている人は多いが、高齢者を支える環境は決して十分とは言えない。
- ▶浜益で過ごす時間を少しでも長くするためには・・・

- ①在宅サービスの充実
 - ▶介護サービスの他、冬季間の生活不安や買い物、交通などの課題にも着目
- ②介護予防への取り組み
 - ▶元気である！役割を失わない！
 - ▶健康寿命を延ばすため、楽しめる場や人との交流を大事にする
- ③支えあいの地域づくり
 - ▶声かけや見守り、心地よい居場所があることで、安心して暮らせる！
 - ▶自分自身のためになることも、意識して伝えていく

ボランティアの思いや様子、高齢者サロンから幅広い世代交流の場への変化のほか、事業拡大の壁と解決策などの提案がありました。

共通課題として連携し、議論を深めるための「課題の地域化」や、支えあいの地域社会づくりの重要性について、改めて認識する機会となりました。

浜益区の大半を占める高齢者が心豊かに暮らしていける社会の実現は、ひいては地域全体の豊かさにつながる重要なテーマです。地域協議会では継続的に情報の共有と課題解決に向けた取り組みの検討を進めます。

協議事項

①第8期地域協議会委員からの引継ぎ事項について

第9期の協議会が今後担う課題及び地域づくりの方向性について第8期の活動を振り返りながら確認しました。

第8期では地域自治区振興事業や浜益区における主要事業、地域おこし協力隊の募集・採用について議論したほか、川下・柏木地区の新しい集会所設に関する情報共有を図ってきました。

また、第7期から継続協議の地域振興等のアイデアとして移住・定住の議論を深めるため外部アドバイザーによる事例報告やワークショップも実施しました。

さらに、浜益区のエduk環境・子育て環境について、市長・教育長より方針が示されたことを受け「浜益区の新しい教育環境を考えるワークショップ」を開催し意見交換を行いました。

第9期ではこれまでの活動等を継承しつつ、関係機関や各種団体

との連携による情報の共有に一層努めながら、先に報告された高齢者が安心して暮らせるまちづくりについて継続検討テーマとして取り組みます。

事務局の提案を受け、委員からはまちのソウルフードを後世に残す取り組みの検討を希望する声や公共交通の利便性向上、高齢者のデジタル社会対応のための講習会実施などの要望が出されました。

今後の協議会でも支えあえる地域社会の実現に向けて議論していきます。

その他報告事項

① 特定地域づくり事業協同組合について

徳地委員よりマルチワーカーに係る労働者派遣事業を行う組合の設立に向けた検討状況について報告がありました。



② 浜益版「集落の教科書」の製作について

地域おこし協力隊の井上隊員と、NPO法人e-zorockが共同で取り組んでいる、浜益版「集落の教科書」について、プロジェクトを代表して、

ボランティアリーダーの大久保亜姫さん(北海道大学3年生)が報告をしました。

令和3年3月のワークショップに始まり、延べ15日間・50名のスタッフが教科書作りに参加。地元漁師や農家、集落に精通している区民、小中学校の先生や市職員など、延べ10日間29名の取材により、地域ならではの情報が得られたことへの感謝の言葉とともに、観光パンフレットより一歩踏み込んだ、マアツクな情報誌として、令和3年度末の完成を目指していることなどの報告を受けました。

関係人口獲得のツールとして完成する教科書が、やがて移住・定住へつながることを期待しています。



<おくやみ>

氏名	死亡年月日	年齢	住所

浜益区の人口・世帯数 (11月末現在)

人口 (人)	【58, 129】 1, 163	<▲23> <▲5>
男 (人)	【28, 181】 533	<▲15> <▲4>
女 (人)	【29, 948】 630	<▲8> <▲1>
世帯数 (戸)	【28, 269】 715	<▲26> <▲1>

集落の教科書とは

- 京都府南丹市のNPO法人テダスが制作、支援している
“良いことも、そうでないことも、ちゃんと伝えたい”
 をコンセプトに、制作、支援している移住のための地域別ガイド
- 浜益の関係人口を増やすために、「関係人口向け」にアレンジした浜益版集落の教科書を制作
 →いざというときに浜益の手助けをできる人を増やす
- 地元住民ではなく、外部の人が作ることで関心者層の興味により着目した冊子の制作が可能